

優曇華物語卷之三

江戸

山東軒主人編

第五段

渥美高敷蛸蛇小退亭

去程二屋美左衛門ハ尾張路を過東海道小かりて。ひささるる急

さむねハ程なく相摸路小つさ。行暮て一夜宿かるとよみ。竹の下夜小

あつて。合鐘倉小近一といへども。脚夫等ハ礼物の重荷をふあひて。夜

日の遠路を来たるうふてあはれ。身上つる足あへて。い

とも。此多さハそのり。新田羽林勅を奉卜て。鐘倉の

りし処。其刺兵火の存不焼水くる跡あれハ。村野の

て。一路の人烟なく。食を索へさ便あけれハ。とをかくカ

い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。

い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。

い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。

い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。

い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。

い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。い。ちろ。どん。えん。

ひまききく。擔子にをおもくち不えて歩佐つて。又二三三の九  
なり。秋霧あきぎりのとまびくひ多み布の又ればも多むむくの疎林ほ源ん  
の烟こもの布りぬ渥美馬あつみま上より指さして。又とかりこも烟のさらかり  
あえし。いそげや者らと下知ちて。馬をとめていらる行ゆちりくいりしり  
る。小果せうくわと林の裏小の草屋くさやあり。清流せいりゅう家を免ぐつて。じろに殺十じゅう松しょう  
の雞頭けいとう樹あり。時ときも急の秋あれ。今いまもあり急葉を添そて。唐錦たうきんと  
ありをとること。日色ひいろにかやさあひて。又も目めもあやり。水のまりく。水のく  
へ小散ちりみごるさぬ。えもへもれぬどかる好景けいもも眼まをなるも渥美あつみ等ら教くわう  
人じん飢うろろ腹をかへ門かど口ぐち小いりてえぬ。肉まの布らりに葉盧の壁をとれぬみと  
れ外との方まの丸木まるきの柱に一つの方あんど灯とうをくけもこもる紙に一張しやう紙あり。温飲おんぎん蒼そう  
麥むぎあり酒あり種の魚ありとかさつけつふれ火をとるものこふあるも登のぼる

もかけおまて。ゆきの旅人りゆうじんふたあまを看板かんばんあり。裏うらふ太布たふもつふものをとる  
る。崎さきの老嫗らうごう。とけあらぐさ白しろ髪かみをあり乱れらる。庭電ていの前小せう圓えんをあま  
て火を焼てを居いらる。そのくさらにひりりの小厨こ酒しゅう食じきの器をとるさ居あ  
り。渥美あつみ等ら教くわう人にんがの看ま板ばんをえていきえりらるこちをあり。馬うまを門口ぐち  
おつあらぐ。擔子たんしをおろしてひじくくちあり。覺かくふ尻けて飯いひをくる者  
あり。蒼麥そうばくをのぞむ者あり。酒さけ肴さかをととむる者あり。おのがさらあらぐ。乞  
そうて飽までのこらひ。やりく飢を忘れて十じゅう分ぶんに氣力きりよくを養ひ志じし  
息いきをひらら折せし。むらひの田原の方かたより。六十じゅう六じゅう部ぶの妙典てん  
國こくの修行しやうぎやう者しやうぎやう笈せきをせおひ。拄しゆ杖じやうをつき。鉦を打あらしめ  
の門口かどぐちおろし。かさらの樹の根おろけて。蒼麥そうばくを買くひ  
で懇りら。渥美あつみが從者じゆうじやにむくひ。又もううせば。あらむくあらむ。方

おぢえ侍り、いづえ赴おもむき、夕ふまで、かく寒空さむやまおむりひて、旅たびをたゞしむとぞ。以もつ、  
 みどく此頃このころの旅たび心こころいそぐ、一ひとさものお侍り、旗はた子こもおまげおえ、  
 さぞつれなひつゝんこつふ。従者じゆしや侍り、お申まをす、おれが、おれが、おれが、おれが、おれが、  
 て此辺こゝを過すぬむ。乃すなはち様さまを知しるむ。足柄越あしづこハ隘阻げんそあるより、  
 實まことおとつ子こ修行者しゆぎやいそぐ。おれが、今いま已まふ。彼所こゝを越こえて、  
 りの難所あんどよおあつむ。いづれも健まある若人わかしとちあれむ。重荷おもをおひ、  
 とも心こころやをくまへしと。二言三語ふたごゝさんご話わらるうち、ひたり、偶ふと修行者しゆぎやの手てく  
 びふ。ものあるをえつけ、惟ただて、何なにぞと問と、修行者しゆぎや答こたて、おれおつとて、  
 あぐくし、因果物語いんぐさものがたりあり。懺悔ざんげのたに語かたて、  
 腹はらとちて榮耀えいぎやう心こころいで、  
 者しやかゝつて、おれが、原土佐國もとすけのくにの百姓ひやくしやうある、隣家りんかひひりの

老女らうぢやうありて、年としごころ、  
 金かね十兩じゆりやうあり、  
 くおもひを、  
 後のちも、  
 り、  
 葬まうし、  
 ふ、  
 幸さいひ、  
 おて、  
 つる、  
 手てを、

長...



優曇華 卷之三

もあらむ。さうして。もさるるふさんせせし。ふあつよく握りて。万がふ  
 ものわて。まさあむむやうに。痛堪か。こも曉ちるるありぬ。せん  
 あく。鎌あて其手くびをかきり。いそがしく屍をもとの。こらくに埋て。  
 飯り。きぬぐやて。いぬをさりて。んせしに。まもくもあれ。其指我  
 手くびふりこみ肉ひらふ癒合て。死せる手くびに血氣通下。脈の  
 さしひきありて。我身体さひつにありぬ。斬きを。さやうもあし。  
 こふつて大い後悔し。人の執念のおそろし。さうを。知。前日の悪  
 念をひるびて。菩提の心を起し。罪障消滅の。六十六部の大乗  
 妙典を。供養し。なんとおもひ。三年前小國を出て。普諸國をめぐ  
 り。頃日當國ふりぬ。懺悔罪を滅せし。さげ。さうり。此事を語  
 て。唯来世の苦患を脱ぬ。そのいぬがひぬ。げあ。人の執念をおそろし

まものふて。因果觀面のこわり。あ。そひが。あ。海し。さか。ち。ん  
 せまうさんそのひ。手くびに。さ。さ。布をさりて。え。け。ぬ。こ。あ。の。人。立  
 ようて。え。る。に。彼。が。つ。ふ。に。さ。が。む。色。青。く。わ。そ。り。さ。る。手。く。び。握。り。つ。て。あ。れ  
 ば。あ。く。身。の。毛。従。て。お。そ。ら。じ。う。わ。お。え。ぬ。あ。ら。じ。の。老。姫。い。ぬ。を。え。り。て。  
 我。等。が。こ。そ。く。一。錢。の。こ。り。さ。き。身。ハ。執。念。の。残。念。さ。き。氣。づ。く。い。ま。を。心。安  
 じ。打。笑。つ。ふ。屋。美。も。彼。が。も。の。か。り。を。す。て。か。る。奇。怪。さ。う。言。ふ。は。こ。そ。く  
 傳。あ。る。り。は。實。し。さ。り。も。わ。は。さ。り。し。か。か。く。目。前。あ。れ。は。言。の  
 こ。ふ。あ。ら。む。む。げ。ふ。貪。欲。の。心。わ。ど。お。そ。ら。づ。さ。は。し。て。奇。異。の。こ。そ。く。し  
 且。憐。愍。の。心。を。お。じ。て。從。者。お。命。じ。錢。三。串。さ。り。と。せ。り。は。修。行。者  
 か。く。辭。し。て。う。げ。も。山。野。あ。り。て。夜。を。あ。じ。流。水。を。以。て。咽。を。う。め  
 布。を。一。所。不。佳。の。身。あ。れ。ば。過。分。の。布。施。物。を。ま。じ。う。さ。ふ。益。あ。り。傳。は

のむとハ、おて足、さうまありといひて。只一鉢をさめて、其鉢ハさつらじ

り、お屋美らぬをえて。世の常言、お悪あつて、さうまあり、さつらじ、さつらじ

彼がさつらじ、おあめと。心のうち、ひをくた、感、さつらじ、さつらじ、さつらじ

ひて、おあがり。さつらじ、おあがり、さつらじ、さつらじ、さつらじ、さつらじ、さつらじ

出行ぬ、屋美ハ、修行者の長物、語ふ、おあひ、り、け、お時、を、つ、り、れ、おあ、ま

う、出ん、おあ、ひ、ある、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お

同に、二里、サ、餘あり、お答、日、あ、ら、う、ち、越、る、べ、し、や、と、又、同、お、お、お、お、お、お、お、お

志、お、り、つ、日、さ、う、を、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お

も、あ、お、ん、う、う、お

へ、う、あ、お、その、お、ら、あり、へ、う、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お

お、お

片時、お、も、お

出て、へ、お

山、お、ち、ら、づ、お

お、お

て、お

に、お

も、あ、お

お、お

ぬ、お

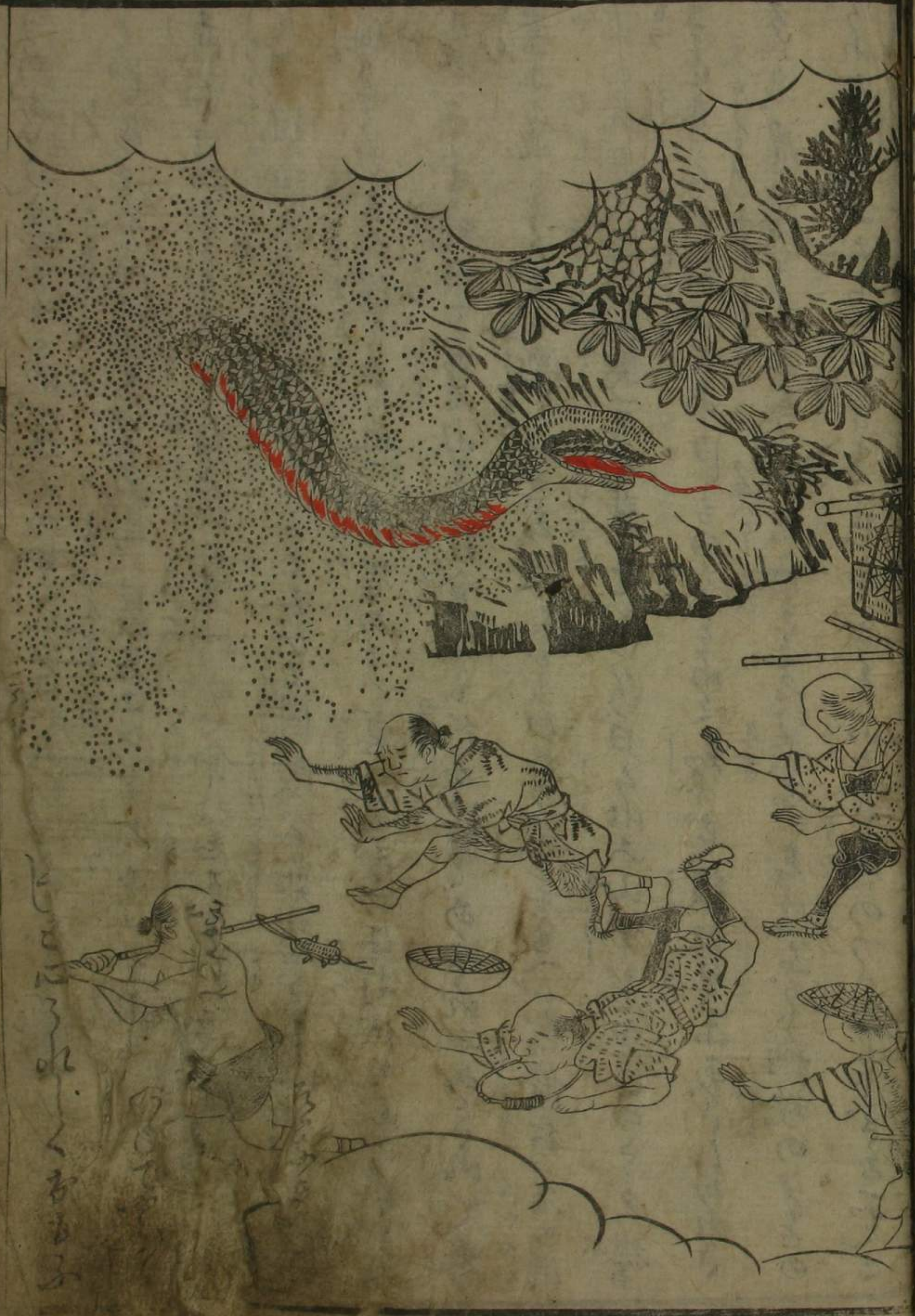
お、お

山を越すと。自馬を生先おまてめて。お世のわりりるが。乃せぬして。おど  
ぐく。萬株の樹木頂の上おおひかりて。老龍の雲をひらるが。てそく  
千嶂の巖石脚の下おまあびて。猛虎の風おろそあきた似り。径路  
曲あして。高お上り低お下り。宵おまさら。險阻の脚夫等ハくろけお  
るめ。馬ハ白泡をあさてまきみわのーが。からくじて半山を道ややく  
蛤坂の峠おどりりる。此所ハまて平地あお。あまらく擔子をおる。  
清水を掬いて咽をうる布し。馬お水うひあじて。箇息を休て居  
る折し。前面の樹林のうち。簌とある音あり。となく此音を  
宵。こハ恠しやと頭をあげてえぬ。夕雲霧おりく。とあり。あくくちよ  
り。吊桶のおちをさある。蜘蛛。半身をあふり。双眼お金を出し。巨  
口をひらき。火のこき舌頭を吐。頭を左右おうちありて。只一呑お

飲ん勢ひをたを。おそむしあむおろく。となく。水を飲んで。色土のご  
とくに。ぬり。身の毛聳。鬼天お飛。擔子を其後をておさ。林鹿をじ  
て逃去り。渥美ハ巖のかけお身をかし。馬上にうらま。半弓をとり  
て。笈前をつ。満月のこくにひさ。さちて弦音らく。漂ま。其  
笈前あや。を。蜘蛛の頭おらし。とちぬ。蜘蛛。これおそれや。志けん。と  
の霧。海さうち。こも。とかられ。つりけれ。渥美ややく心を安ん。従者  
等の立ちるを。まらける。野。忽樹林のうち。うら。あふ。水出さる人あり。  
こ水をえぬ。かの酒屋おて。遇。修行者之。恠哉。このあ。のや。ま。さ  
か。う。さ。ぬ。て。志。ま。り。お。鉦。を。打。あ。じ。ら。る。が。や。う。て。十。四。五。人。の。盗。人。林。の。う。ち。う。ら  
走り出。かの五荷の擔子を。く。ひ。さ。り。ち。の。こ。こ。ら。お。逃。つ。り。ぬ。渥。美。大。走  
驚。る。馬。を。飛。せ。て。追。行。け。る。が。此。時。已。お。日。ハ。入。果。て。宵。圍。の。夜。の。ま。く。く。

夏 尾上





しんくち



しんくち

まのあつらひにまらぬ盗人のゆゑを又失ひ心ならず  
まじし谷底ふおちりぬ馬ハ巖石ふ足を打りて死  
前輪ふおちりつと居られ幸して一命ハ恙なしと  
て重風麻木ごとく両腿をそこあひて闘敗公雞あひてふ異あひてに  
疵をうけ鮮血滾くふがれて痛堪がく息もうけお打伏て志ざり  
もあぐらを乳物を奪ねて後倉おも行かじとあそれふあそめて思  
案ふらぬうりるが漸く心をあつめておもひりる今おもへばかの修行者も酒  
屋の老嫗も盗人の夥之我輩をいつり日々ぬお山中をゆじめく言  
子を奪ん奸計あてありしものをそゆと知らむ彼奴等ふあそむゆゆ  
るハ我慮の浅きゆゑあり今後悔を多く益なし志しあぐらあぐらの口をの  
ぐれかる谷ふおちりて一命をとりあはさるる運のつとありとざるふこと

ても案内知らぬ山中あて急小賊を捉んことあそふはじとふ夜中かゝる  
谷のうちにあふバ必猛獸の餌とあはじ速此ふを逃出人家あるくをせら  
福て一夜をあはし明朝ふつりて家人等がなづれをぞ且かの酒屋の老  
嫗を捉へせあそひて賊の在所をせら此仇を報べしと思案をさそめらる  
がゆる難義の折あるに時雨さそそ益暗東西をたさるぬバ松の  
枯枝枯草のこまひをせら腰ふびゆる大打袋をせりて火を打進り  
の火犯をよとの敵死馬ハあそそをておきて東の方に草のわかくがら  
径路あるを幸ふとせゆきけるがおそそ羊時をうり走りて  
つり萩紫苑女郎花尾花葛花のこまひ人の夫よりさそ  
るが残る色あく霜がれゆるあそそ押分マそそ巴こをさそ  
るそひらき所おぬぬハ必林蔵ふ通ふるあはじと心それくおもふ

新しき。よりみあがむ。さびめあき。空を。志は。のち。に。霞。や。み。て。月。
 ふあ。さ。さ。り。影。玲。瓏。と。して。い。く。ぬ。隈。も。あ。し。こ。ふ。ふ。か。を。得。て。む。ら。ひ。の。方。
 え。甲。れ。松。林。の。と。う。に。一。宇。の。寺。あ。り。こ。ふ。幸。し。こ。ふ。白。き。て。一。宿。を。と。こ。さ。
 走。り。行。て。さ。ら。に。山。門。を。つ。り。て。扉。左。右。お。と。れ。あ。ら。ぬ。さ。び。し。く。荒。れ。
 こ。る。舊。寺。の。月。の。光。り。あ。ら。く。昼。の。と。と。あ。ぬ。さ。ら。ち。ふ。入。り。て。あ。や。ふ。ら。に。
 一。箇。の。人。も。住。む。鐘。樓。ハ。荆。棘。む。ひ。か。り。経。閣。も。む。あ。く。苔。蒸。ぬ。蜘蛛。を
 む。び。び。て。諸。佛。を。較。す。燕。子。の。糞。護。摩。の。林。を。ら。び。む。方。丈。廊。房。壁
 ち。ち。床。ぬ。け。て。洋。む。と。布。あ。ぬ。落。葉。さ。ら。つ。も。り。さ。る。あ。ら。に。狐。兔。の。跡。あ。る
 の。一。連。の。地。草。蔓。こ。こ。生。茂。り。て。荒。野。の。と。と。く。あ。る。に。大。き。あ。る。松。の。吹
 こ。あ。れ。さ。ら。を。彌。婆。渡。美。お。も。ひ。ら。ら。あ。て。あ。く。響。る。さ。あ。れ。む。づ。ら。に。人。家
 あ。り。や。む。づ。ら。あ。し。こ。こ。に。腿。酸。脚。軟。て。一。歩。も。と。こ。ふ。に。思。が。ぬ。む。枉。て。此。お。

一夜をありまにあり。野宿する。あ。は。ま。と。し。く。あ。ら。め。こ。心。を。さ。さ。め。佛
 殿。の。上。に。座。して。心。氣。を。や。ま。め。ら。ら。が。松。吹。風。谷。の。水。音。耳。ふ。ひ。ぐ。く。ひ。ぬ。く。霜
 夜。ふ。よ。ら。る。虫。の。声。い。と。わ。そ。く。こ。こ。え。て。殊。あ。あ。し。時。に。む。ら。ひ。の。と。と。を。遠。く
 え。や。息。継。あ。と。あ。る。大。の。光。り。四。つ。五。つ。乱。飛。ぬ。狐。の。と。も。を。大。く。堆。え。わ。ひ
 づ。や。近。く。あ。る。を。え。ぬ。が。十。四。五。人。の。者。大。把。を。揮。照。し。て。此。寺。に。ま。ら。み。ま。
 る。美。体。細。ど。あ。ら。ん。身。を。く。じ。て。様。子。を。え。ら。じ。と。部。の。や。が。ぬ。不。足。ふ
 け。て。河。深。ふ。の。お。り。息。を。つ。め。て。う。ぐ。ひ。え。ぬ。が。か。の。老。い。も。い。前。の。遊。人
 へ。て。の。五。荷。の。擔。子。を。あ。あ。ひ。来。て。佛。殿。の。上。お。か。き。ま。ら。
 る。び。て。息。を。や。ま。む。様。之。別。お。又。堆。む。ご。ま。あ。人。の。野
 て。お。あ。ひ。来。ぬ。屋。美。深。の。上。より。軒。を。る。月。あ。ら。う。り。に。よ。ら。み。
 蜘蛛。あ。ら。む。其。形。を。似。せ。つ。ら。う。る。物。あ。ぬ。が。こ。れ。あ。も。又。あ。ら。む。む。ら。ぬ。



うと憤をうさぬ初ちもへらく。我をうさむも此所不迷ひ来て彼故に  
出合しこそ幸あれ日ごろ学び得たる武藝ハ此時こそもちろべし  
等えり。刃鉄のづくけ斬尽まじと目釘をぬけ袖をききあ  
たの真中へ撲地飛下りければ盗人どもハおもひろけぬすおて。大  
四方おこしむりきて箇々平廣をぬきとち渥美を足中おろりか  
みて前後一度斬りける。渥美は水両刀の達人あれを双手ふ刀を打  
りて。劍法の秘術を尽し。身を閃て踢倒し。跳越て後おあふれ  
たの玉屑を飄し。雪の瓊花を撒がごとく。そとそとさして前におま  
るあ賊を斬伏四五人お深手をかりせ。あふ勢ハ極く戦ければ教人の  
盗人ども。氣おろして尻ごじ。あふ敵いごとくええええ。折しも床の  
板をさのけて。一個の大漢をうりいで。明晃々たる。廣刃の斧をひつさ

げで渥美がしるふちちまたり。斧の光りひらめくと又え。が。忽渥美ハ両  
段ふりぬて。地上に撲地と倒し。嗚呼憐む。名家の子孫累代の舊  
家ありて一郷の長者そとやまの富貴威權共お保一点の不足あきあ  
らふ。そとちも賊寨お陥四十二歳を一期止して草葉の露とさえりせぬ。  
正是萬里の黄泉旅店とく三鬼今夜誰が家おり落る。いつる  
ひみて哀れうあささの終之床の下より出さる大漢ハ別の人おあふど乃  
是大太郎玄海之の細干夫婦を殺して後髪をととる。くらう大  
蛇太郎と稱し。賊首とありて。あふ小賊をあつめ。旅人を劫して。  
金銀財貨を奪り。人を殺さる麻を刈がごとく。暴息やつり。  
こみこり當國おつり。彼舊寺の床の下におけ穴をありちきて。怪  
はし時。回國の修行者お身を拾して。近國を徘徊し。蟬をぬりて。

をつらり因果物語をゆして。諸人をまとい。人家の奥内をうかして。賊を  
あまうりたりと。或ハ又此山中雲霧のふらうきと幸ひ蛇皮を以て。其  
のわらちをうらり。これと霧の裏おもて。しめて。往來の旅人を赫し。其  
ふふとて。擔子を奪ふ。又かの酒屋の老嫗も。同夥の老あぬ。那裡に店を  
ひらうせ。一箇の小賊をつげおきて。もつ。往來の旅人をうかじむ。若擔子  
おむき。旅人のよきる時。彼等則山中に告て。これと奪。めらるるを。  
何を以て。これを知ると。うらう。これハ後に其時の想も考へ。かともあ  
りけぬ。難量をもて。語傳し。あめ。此と。以のう昔物語ふ例おむ。  
己に謝肇淵も此うを論。おきぬ理を以て。せむる人。か。世もあ。み  
おもふ。こ。あ。ぬ。

第六段

弓兒流沈て。政蘇の雪路お苦む事

夫ハ初おさ。辰に又渥美が従者等ハ蜘蛛ををらして。逃。い。ら。か。ま。  
人の安否を氣づ。い。珠。お。擔。子。を。を。ら。お。き。こ。ぬ。ハ。お。む。こ。を。得。お。お。ら。う。  
う。こ。不。飲。り。て。え。ら。に。主人の。を。擔。子。も。失。く。ぬ。ハ。大。お。驚。き。箇。高。議。て。  
山中を普尋らら。さ。に。由。之。知。ぬ。が。ぬ。ハ。尋。候。て。其。夜。ハ。麓。お。下。り。て。あ。り。  
翌日又山お。り。て。尋。ら。ら。に。さ。ある。谷。陰。み。て。かの。敵。馬。を。ら。つ。け。て。益。敬。馬。  
ま。初。ハ。主人。蜘蛛。に。の。す。れ。ぬ。ふ。ら。さ。る。あ。て。も。擔。子。の。失。ぬ。ら。ハ。つ。ぶ。じ。お。を。ら。ら。ハ。  
山。ご。り。の。盗。人。等。お。奪。ぬ。る。あ。人。志。う。ら。る。こ。さ。ハ。主人。も。賊。の。あ。り。害。せ。ぬ。  
あ。い。し。も。あ。ら。う。と。何。お。す。れ。我。非。單。主人の生死を。を。け。ぬ。の。事。お。し。  
倉。お。さ。ら。る。大。切。の。礼。物。を。失。ひ。ぬ。ハ。此。傳。國。お。飯。ら。必。罪。せ。ら。ぬ。事。お。し。  
く。も。逃。行。お。あ。じ。て。お。ひ。く。逃。去。お。し。ハ。お。不。忠。の。非。單。ハ。脚。夫。お。し。

やうな者あねば。さきごとちて逃しぬ。又々ひ罪せらるるも。國ふりて  
仔細を告。そのへんをいふもあり。果ん心をもさしめて。國ふ飯る者もあり  
けり。かゝる者の者も國ふりて。事の始末をつかた。告げぬ。弓兒はさる  
一家の老どもをえて。夢あめ。一こちをゆ。歎悲。限りもあ。筆に記  
尽をづ。もあ。家士。議。主人。蟬蛇。不。言。せ。れ。ぬ。賊。殺  
れ。ぬ。此。方。様。不。定。せ。り。も。萬。一。ツ。恙。あ。ら。な。い。も。量。か。は。何。ふ  
ま。ぬ。人。を。え。び。て。彼。所。お。つ。じ。生。死。の。あ。い。し。其。上。お。て。仔。細。を。鏡。倉。お  
ろ。ろ。あ。ら。ま。あ。べ。う。む。む。一。次。て。お。も。ご。ち。家。の。子。あ。人。を。旅。ぐ。せ。け  
ぬ。あ。人。の。急。ぎ。を。彼。所。お。至。り。よ。く。山。中。の。案。内。を。あ。り。と。る。者。を。や。し  
て。隈。を。残。り。あ。く。尋。ね。ぬ。つ。ひ。ふ。か。の。旧。寺。お。て。渥。美。が。屍。を。尋。ぬ。出。し。賊  
の。所。お。次。ぬ。ぬ。ば。ふ。ち。に。總。倉。お。り。事。の。始。末。を。つ。か。た。つ。と。渥。美

が屍をとりて。くりぬ。管領持氏公。い。う。せ。ぬ。ひ。や。が。捕。盜。官。に。命。じ。む。へ。ば  
あ。ぬ。の。奴。兵。を。方。て。足。柄。お。至。り。あ。ぬ。ぬ。も。と。む。ろ。と。之。を。賊。お。か。か。の  
擔。子。を。常。の。擔。子。と。な。し。ひ。び。き。さ。ん。て。し。じ。め。て。管。領。お。さ。ら。る。礼。物。あ。ら  
し。め。り。且。目。録。書。を。又。て。渥。美。が。住。所。姓。名。を。知。り。か。く。て。後。會。及  
ま。じ。う。と。な。し。ひ。殘。り。を。逃。去。さ。る。跡。あ。ぬ。手。を。む。か。し。唯。彼。旧。寺  
を。焼。じ。て。飯。り。ら。る。と。去。程。お。渥。美。が。家。お。て。主。人。を。失。ひ。て。暗。夜。お  
ろ。し。火。の。さ。え。ら。る。む。ひ。を。ゆ。只。追。福。の。仏。事。に。の。日。を。お。ら。り。て。つ。つ  
に。此。年。も。ら。ぬ。果。て。う。せ。ぬ。人。は。久。う。ぬ。と。あ。ら。玉。の。年。ハ。巳。に。ま。り。て。永。享  
十。一。年。お。い。り。り。る。爰。お。又。總。倉。の。執。權。憲。實。ハ。管。領。持。氏。公。の。所。を  
を。ひ。て。ま。り。諫。こ。い。へ。ども。も。ち。あ。ら。ぬ。さ。れ。ば。此。よ。う。を。京。都。お。通。下。武。田  
倉。の。諸。軍。勢。も。も。持。氏。公。を。擊。撃。持。氏。公。運。つ。あ。り。て。此。年。の。二。月。永。享

寺に於て自害しむふ。京都の世積つとく。持氏公の隠謀一味しむる非... 尽く九族をくられり。渥美も一旦此事にらり。京都ふ... 田他家財を没収せし。一家の男女尽く追て。日... の恩を顧ぶる者も。あてあめさ。我さきと道... ひて失ぬ。大も途も... 此時病後あり。命をあげて救出し。づえも... 京都のまことえををれて。ちうつけ... 前小渡あく。後途を失ひ。迷ひ居て。追人... 思案にくれ。り... 信濃國... 住りを穿。ゆる急難の時。あわは権且彼が方へ。おちゆん。心を定めて。旅... 立を。弓見ハ市女笠を深く。うらま。面をかじ。絹の衣のうに。浴衣をつか... 折て。行纏をす。草鞋を穿て。賤女の姿。扮作衛守ハ。五月... 藁苞のうちにかじ。包とも。にせむ。太布の上。青紙中ひき。こと。教珠... つまがり杖。つさて。田舎翁の善光寺詣。孫女を。あひ... 拾てぞ。打連。弓見ハ。涙。むせ。か。く。あ。ぬ。る。禍。あ。ひ。て。む。か。ひ。け... む。住。あ。ぬ。故郷を。あ。ぬ。む。お。つ。り。あ。き。旅。路。あ。し。む。あ。る。あ。し... さ。報。を。や。ま。ひ。て。う。ち。敷。ハ。衛。守。も。ひ。く。も。悲。て。一。歩。も。ま。ま。り... かくて。ハ。く。い。あ。し。も。あ。ひ。て。自。己。志。を。励。し。弓。見。を。こ。り。ら... め。て。岐。蘇。の。棧。を。あ。ゆ。む。あ。く。ま。急。あ。ら。ま。白。雲。を。こ。け。つ。彼。陳。忠。が... 落馬。し。坂。の。雞。取。あ。し。かり。を。う。原。け。行。袖。の。露。け。を。う。

め。て。岐。蘇。の。棧。を。あ。ゆ。む。あ。く。ま。急。あ。ら。ま。白。雲。を。こ。け。つ。彼。陳。忠。が... 落馬。し。坂。の。雞。取。あ。し。かり。を。う。原。け。行。袖。の。露。け。を。う。



夏  
島  
集  
巻之三



三月廿一日  
 四月廿一日  
 五月廿一日  
 六月廿一日  
 七月廿一日  
 八月廿一日  
 九月廿一日  
 十月廿一日  
 十一月廿一日  
 十二月廿一日

夏島集  
 巻之三



夏島集  
 巻之三

夏島集  
 巻之三

涙のちづくおきそへて。身の憂<sup>うれ</sup>こ<sup>こ</sup>や<sup>や</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>山<sup>やま</sup>。い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>山<sup>やま</sup>阪<sup>さか</sup>を<sup>を</sup>越<sup>こ</sup>え<sup>え</sup>  
げ<sup>げ</sup>。腕<sup>うで</sup>衣<sup>え</sup>嶽<sup>たけ</sup>。乘<sup>のり</sup>鞍<sup>くら</sup>岳<sup>たけ</sup>。御<sup>ご</sup>嶽<sup>たけ</sup>駒<sup>こま</sup>嶽<sup>たけ</sup>あ<sup>あ</sup>ん<sup>ん</sup>。遠<sup>とほ</sup>望<sup>のぞ</sup>望<sup>のぞ</sup>峰<sup>みね</sup>く<sup>く</sup>。宿<sup>しゆく</sup>雪<sup>ゆき</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>て  
え<sup>え</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>ふ</sup>え<sup>え</sup>寒<sup>さむ</sup>け<sup>け</sup>。雨<sup>あめ</sup>を<sup>を</sup>含<sup>こ</sup>み<sup>み</sup>孤<sup>こ</sup>村<sup>むら</sup>の<sup>の</sup>樹<sup>き</sup>。夕<sup>ゆふ</sup>を<sup>を</sup>送<sup>おく</sup>る<sup>る</sup>遠<sup>とほ</sup>寺<sup>でら</sup>の<sup>の</sup>鐘<sup>かね</sup>。い<sup>い</sup>づ<sup>づ</sup>れ<sup>れ</sup>哀<sup>あは</sup>れ<sup>れ</sup>  
堪<sup>た</sup>み<sup>み</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>殊<sup>こと</sup>更<sup>さら</sup>お<sup>お</sup>ち<sup>ち</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>。山<sup>やま</sup>お<sup>お</sup>ろ<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>梢<sup>こむぎ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>じ<sup>じ</sup>宿<sup>しゆく</sup>鳥<sup>とり</sup>の<sup>の</sup>月<sup>つき</sup>  
後<sup>ご</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>。追<sup>お</sup>ひ<sup>ひ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>驚<sup>おどろ</sup>か<sup>か</sup>す<sup>す</sup>。膽<sup>い</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>。胸<sup>むね</sup>を<sup>を</sup>ひ<sup>ひ</sup>や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>。と<sup>と</sup>ろ<sup>ろ</sup>づ<sup>づ</sup>に<sup>に</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>け<sup>け</sup>  
旅<sup>い</sup>人<sup>びと</sup>の<sup>の</sup>通<sup>とほ</sup>ふ<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>。こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>山<sup>やま</sup>か<sup>か</sup>。み<sup>み</sup>谷<sup>たに</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>。間<sup>かん</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>  
わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>遠<sup>とほ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>。さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>て<sup>て</sup>。さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>見<sup>み</sup>え<sup>え</sup>。さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>深<sup>ふか</sup>幽<sup>ゆう</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>に<sup>に</sup>養<sup>やしな</sup>は<sup>は</sup>れて<sup>て</sup>  
あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>侍<sup>どちよ</sup>女<sup>によ</sup>子<sup>こ</sup>か<sup>か</sup>。つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>歌<sup>うた</sup>の<sup>の</sup>道<sup>みち</sup>系<sup>けい</sup>竹<sup>ちく</sup>の<sup>の</sup>業<sup>わざ</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>。花<sup>はな</sup>お<sup>お</sup>め<sup>め</sup>で<sup>で</sup>  
月<sup>つき</sup>お<sup>お</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>。水<sup>みづ</sup>紅<sup>べに</sup>葉<sup>は</sup>の<sup>の</sup>秋<sup>あき</sup>雪<sup>ゆき</sup>の<sup>の</sup>夕<sup>ゆふ</sup>。折<sup>を</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>事<sup>こと</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>。み<sup>み</sup>や<sup>や</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>に<sup>に</sup>  
の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>。誰<sup>たれ</sup>衣<sup>え</sup>の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>。身<sup>み</sup>上<sup>う</sup>に<sup>に</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>手<sup>て</sup>弱<sup>よわ</sup>女<sup>によ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>に<sup>に</sup>  
り<sup>り</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>不<sup>ふ</sup>祥<sup>しやう</sup>の<sup>の</sup>時<sup>とき</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>。穿<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>も<sup>も</sup>慣<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>草<sup>くさ</sup>鞋<sup>せ</sup>を<sup>を</sup>踏<sup>ふ</sup>て<sup>て</sup>。や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>險<sup>けん</sup>路<sup>ろ</sup>を<sup>を</sup>こ<sup>こ</sup>  
る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>。忽<sup>たちまち</sup>脚<sup>あし</sup>破<sup>やぶ</sup>鮮<sup>あま</sup>血<sup>ち</sup>淋<sup>しみ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>て<sup>て</sup>。た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>草<sup>くさ</sup>を<sup>を</sup>紅<sup>べに</sup>お<sup>お</sup>深<sup>ふか</sup>あ<sup>あ</sup>し<sup>し</sup>。彼<sup>か</sup>お<sup>お</sup>跌<sup>お</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>  
倒<sup>たふ</sup>れ<sup>れ</sup>。風<sup>かぜ</sup>お<sup>お</sup>ち<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>。白<sup>しろ</sup>梅<sup>うめ</sup>お<sup>お</sup>ひ<sup>ひ</sup>じ<sup>じ</sup>く<sup>く</sup>嵐<sup>あらし</sup>お<sup>お</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>む<sup>む</sup>。女<sup>によ</sup>郎<sup>らう</sup>花<sup>はな</sup>お<sup>お</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>あり<sup>り</sup>。只<sup>ただ</sup>蛇<sup>へび</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>  
あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>鳥<sup>とり</sup>の<sup>の</sup>翼<sup>つばさ</sup>を<sup>を</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>。網<sup>あみ</sup>を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>魚<sup>うい</sup>の<sup>の</sup>鱗<sup>うろこ</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>風<sup>かぜ</sup>情<sup>せい</sup>し<sup>し</sup>  
て<sup>て</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>里<sup>さと</sup>に<sup>に</sup>宿<sup>しゆく</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>人<sup>ひと</sup>お<sup>お</sup>身<sup>み</sup>を<sup>を</sup>寄<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>の<sup>の</sup>床<sup>とこ</sup>の<sup>の</sup>草<sup>くさ</sup>枕<sup>まくら</sup>か<sup>か</sup>  
し<sup>し</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>衣<sup>え</sup>手<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>む<sup>む</sup>。岐<sup>き</sup>岨<sup>そが</sup>川<sup>がわ</sup>の<sup>の</sup>岩<sup>い</sup>お<sup>お</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>水<sup>みづ</sup>音<sup>ね</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>。紅<sup>べに</sup>の<sup>の</sup>淺<sup>あ</sup>葉<sup>は</sup>  
の<sup>の</sup>野<sup>の</sup>良<sup>ら</sup>お<sup>お</sup>刈<sup>かり</sup>草<sup>くさ</sup>の<sup>の</sup>束<sup>たば</sup>間<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。夢<sup>ゆめ</sup>さ<sup>さ</sup>に<sup>に</sup>む<sup>む</sup>ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>か<sup>か</sup>ひ<sup>ひ</sup>つ<sup>つ</sup>有<sup>あ</sup>明<sup>あけ</sup>山<sup>やま</sup>お<sup>お</sup>  
つ<sup>つ</sup>雲<sup>くも</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>さ<sup>さ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>身<sup>み</sup>を<sup>を</sup>悲<sup>かな</sup>し<sup>し</sup>。知<sup>ち</sup>俱<sup>く</sup>麻<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>河<sup>か</sup>伯<sup>はく</sup>の<sup>の</sup>細<sup>さい</sup>石<sup>いし</sup>。ち<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>  
ひ<sup>ひ</sup>ふ<sup>ふ</sup>え<sup>え</sup>を<sup>を</sup>袖<sup>そで</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>涙<sup>なみだ</sup>。信<sup>しん</sup>濃<sup>のう</sup>野<sup>の</sup>の<sup>の</sup>木<sup>き</sup>解<sup>と</sup>み<sup>み</sup>ら<sup>ら</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>。白<sup>しろ</sup>露<sup>つゆ</sup>の<sup>の</sup>玉<sup>たま</sup>お<sup>お</sup>  
ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>保<sup>たも</sup>屋<sup>や</sup>の<sup>の</sup>薄<sup>うす</sup>の<sup>の</sup>芽<sup>め</sup>出<sup>で</sup>さ<sup>さ</sup>足<sup>あし</sup>を<sup>を</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>く<sup>く</sup>。こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>て<sup>て</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>  
素<sup>もと</sup>危<sup>あや</sup>急<sup>いそ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>を<sup>を</sup>。い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>ハ<sup>ハ</sup>。脱<sup>だつ</sup>出<sup>で</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>  
ふ<sup>ふ</sup>も<sup>も</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>て<sup>て</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。今<sup>いま</sup>ハ<sup>ハ</sup>。飯<sup>い</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>て<sup>て</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>  
ふ<sup>ふ</sup>も<sup>も</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>て<sup>て</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。今<sup>いま</sup>ハ<sup>ハ</sup>。飯<sup>い</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>て<sup>て</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>

衛守八年老らるる病後の旅あはれ若しとて折やつて  
 寒ふさふあやめぬれ方おひれ足あそびて歩へま力尽くぬ山中の清水  
 ある所を尋ね呑をうる不さんまきりに時ハ衣更ふものもあはれど名  
 おける寒國あはれ他郷の嚴冬の時中もまより野馬生ふ山石間おむま  
 氷ハ剣と種くるやうおて風の祝も心せんと風越の山おし肌を斬ぐとて衛  
 守ハ身上へらふ寒氣骨おさわりて面草のちるふらり打あつて  
 くに倒て息もとあげふすめくおくらに旅立ぬぬ薬もくく人里ふ  
 遠けぬ何せんもいほ弓児ハこちまを以て清守が頭を抱きこ何  
 とありゆく因果を泣声にたおやぞ名晚ちゆくありぬぬこそ  
 なく谷幽おして心おそさ消もつるへまこちま此折しも一むか  
 かつれて降來雪紛し揚こして柳絮を飛もがごとく鴨毛のすぬ  
 たり。えろく高くつかりて満地玉をあげりるる人ハ雪水おる  
 むじ吹雪お面をくくれてくなく手凍足屈ていふふもまをくく  
 けぬハ弓児かよまをかお清守を抱扶てまにまけりくる松が根お打  
 伏せあくりの枯枝をひろひあつめて火をとまつけ雨衣えあけぬハ只包  
 くぐまへる著久の小袖を打させらうたことこと餉をいじて雪水に  
 くる所清守が頭をあてつて涙をひけりハ清守眞んまをかおこす年  
 ちぬ女の刃のかる難所を越てそまをへ来つれむらや  
 たちまのふおて心安いそつるにまごひがひ多くつら  
 よらりくらまを氣かへうふあはれの飢きうをけよ火あ  
 こめよといへる清守やく頭をあて涙をまろくまじし  
 のうちあもま徒の序縁まろくうけぬむこそ

衛守八年老らるる病後の旅あはれ若しとて折やつて  
 寒ふさふあやめぬれ方おひれ足あそびて歩へま力尽くぬ山中の清水  
 ある所を尋ね呑をうる不さんまきりに時ハ衣更ふものもあはれど名  
 おける寒國あはれ他郷の嚴冬の時中もまより野馬生ふ山石間おむま  
 氷ハ剣と種くるやうおて風の祝も心せんと風越の山おし肌を斬ぐとて衛  
 守ハ身上へらふ寒氣骨おさわりて面草のちるふらり打あつて  
 くに倒て息もとあげふすめくおくらに旅立ぬぬ薬もくく人里ふ  
 遠けぬ何せんもいほ弓児ハこちまを以て清守が頭を抱きこ何  
 とありゆく因果を泣声にたおやぞ名晚ちゆくありぬぬこそ  
 なく谷幽おして心おそさ消もつるへまこちま此折しも一むか  
 かつれて降來雪紛し揚こして柳絮を飛もがごとく鴨毛のすぬ  
 たり。えろく高くつかりて満地玉をあげりるる人ハ雪水おる  
 むじ吹雪お面をくくれてくなく手凍足屈ていふふもまをくく  
 けぬハ弓児かよまをかお清守を抱扶てまにまけりくる松が根お打  
 伏せあくりの枯枝をひろひあつめて火をとまつけ雨衣えあけぬハ只包  
 くぐまへる著久の小袖を打させらうたことこと餉をいじて雪水に  
 くる所清守が頭をあてつて涙をひけりハ清守眞んまをかおこす年  
 ちぬ女の刃のかる難所を越てそまをへ来つれむらや  
 たちまのふおて心安いそつるにまごひがひ多くつら  
 よらりくらまを氣かへうふあはれの飢きうをけよ火あ  
 こめよといへる清守やく頭をあて涙をまろくまじし  
 のうちあもま徒の序縁まろくうけぬむこそ





山行記  
六



山行記  
七

そひアつた。おのれ已ふ齡かゝるまゝに老病をくけし水はあぢくは  
づきまゝあせんすとのほ。況此寒氣おあさり。飢渴おせぬり。險路  
やめ。まてもつさあがらふべし。こゝかあまほじ。まに全めんをわむ。ち  
がく失ふそアをこゝれ修多。孫がくハやつぬら。一重の衣を所身に籠衣  
て寒をいつひ我刃一粒の糧を合せて。飢をあのまむひ片時もゆくと  
を去り。身が任家をヨ奪むひて。所身をヤせんざる。良計を法むへ。まも  
くをうらがさ。老が刃の分抱お。大事の所身をあやまらむふまを  
息のあゝあり。弓兒打つて。をわむひもよまを。まれかくそれ。ひらにこ  
そあり累あ。こゝひアハの命をさうらるまも。いうで。其方をえまをち  
行つくと。泣くよあを。沸ちかすぬて。つひらら。かゝる危急おのをこて。まを此老  
が身をさむりうかむひらふぞや。此大雪おまらうじて。こふひあさ。必凍て死

しむらん。おん死一むあも。系身さまらら。つまへをわは。日晩ぬらちんを  
やま。かちさせむま。いひて。苦き身を起あら。帯ひまを。著物を脱  
て。弓兒が膝お。や。ゆ。バ。弓兒ハ。あ。ち。著。せて。更。お。行。つ。さ。へ。ろ。あ。け。れ  
バ。沸。守。氣。を。焦。燥。ア。ワ。け。あ。し。ま。所。方。を。ま。ま。も。死。ぬ。べ。し。此。身。を。何  
罪。つ。ら。り。に。苦。を。か。ぬ。へ。ま。そ。て。赤。裸。お。あ。り。て。雪。の。裏。に。の。り。伏。弓。兒  
ハ。か。あ。く。焼。火。を。つ。く。ろ。い。著。物。か。ま。抱。て。又。も。立。寄。雪。打。も。う。ひ。て。抱。か  
ら。せ。ま。や。舌。こ。り。眼。さ。ち。て。ま。を。ま。け。あ。く。え。え。け。る。あ。を。あ。ぬ。り。の。か。は  
さ。あ。声。こ。に。ま。む。お。つ。る。涙。を。の。び。ひ。つ。我。刃。の。ぬ。く。り。に。肌。あ。く。あ。あ。じ  
て。分。抱。ま。今。ハ。ま。や。か。あ。ひ。か。く。糸。の。ち。あ。る。息。ひ。を。そ。り。て。黄。泉。の。鬼  
ま。ち。う。て。ぬ。り。見。ハ。ま。ま。さ。や。も。あ。く。只。死。骸。お。取。つ。ま。て。か。さ。り。あ。ま。さ。ら。う  
ま。い。ひ。つ。も。悲。歎。の。涙。お。む。せ。え。り。哀。あり。あ。く。も。あ。ら。う。と。あ。む。し。て。涙。を。お。ま。ま

憂 思 云 々 卷 之 二

二 二



が身あて命あきらむ世は又々いあはるべからむ父は非命に死す  
ひ家い不慮に滅びし。ああ召仕し者もにさへきてらぬて立す  
づき陰もあく住あゆし故郷を逃れて去るぬ國をさまよひありま  
ひ個を杖柱とあつる浦守さへくせぬら。いりあら宿世の報そや年  
あうぬ女の身あていりでりひしう旅路をうくるべき人買あむし出合  
て。もー此身を奪ぬあはあがる苦患をまらするのさあむき過行玉  
あ父母に汚名をかかす不孝の罪候といひつけあさるべきぞ。こそも不  
運の此身あゆばいさきよく自害して浦守があとをあむし行死  
出葬途を打連て父母のおりし草葉の陰にやさんし取あゆむ。  
ともにかいしうまもしん。そやどやくそんそ悟をさなぬ南無阿弥陀  
佛日ごう念むら谷汲の観世音親子ハ一世のちぎりとさげほ  
菩薩の慈悲心あて父母の蓮座にみちびきをむと命し西ふむ  
うひてあーをぐと。おらぬせと氣を励し。芭ゆかくせし。月とぬ  
ま。雪に映しけてさかぬら。やぐて呪にけさるとんきしる折しも。  
背後の方の巖の上に簾をさす音ひぐく。此音は何等の音を。  
のちものさうまろえ  
後の物語を待得てあつる

優曇曇曇物語卷之三終

大木大木

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive script.

Handwritten text in red ink on the left page, including the characters '大森大明神'.





